

システムソフトウェア特論演習

初回説明資料：C言語演習について

九州大学 大学院システム情報科学研究所

特任准教授 安藤 崇央

2019/04/08



九州大学

資料のダウンロード元 URL

- https://drive.google.com/drive/folders/1-u9hIvR11m3MSXe7e6Yxx_N5Kp8DyAWP?usp=sharing

演習の概要

- C言語の総合的な演習
- 1つの課題を3週間かけておこなう
 - 本演習全体で4つの課題に取り組んでもらう
- C言語の基本的な文法については説明しない
- 演習は各個人のPCでおこなう
- C言語の開発環境・実行環境は各自好きなものを利用して構わない

演習課題の提出方法

- 提出物
 - コンパイルに必要なファイル一式、ただし**実行ファイルは含めないこと**
 - 説明レポート（PDF形式）
- 提出規則
 - 上記ファイルを zip ファイルに圧縮（**実行ファイルは含めないこと**）
 - ファイル名は 学籍番号.zip とする 例）2IE19999X.zip
- 提出先
 - 下記のアドレスにメールで送信（**宛先は福田先生ではない**）
ando.takahiro@f.ait.kyushu-u.ac.jp
 - 電子メールの件名は、各課題の提出方法で指定するものを必ず用いること（課題毎に件名が変わるので注意）
 - また、提出物の zip ファイルに実行ファイルが含まれていると、**メールサーバ側でメールの受信を拒否するため課題が未提出扱いとなる**ので注意すること
- 提出期限
 - 課題毎に提示

採点基準

- ソースコード
 - 他人に読ませることを前提としたコードとなっているか？
 - プログラムが実行できるか？
 - 与えられた課題をこなしているか？
- レポート
 - 指示されたことが記されているか？
 - 書かれている内容が適切であるか？
- その他にすぐれたところがあれば加点
 - 例) 再利用性・保守性を考慮した設計となっている

注意点

- C言語の規格からはずれた記述や、標準Cライブラリ以外の既存ライブラリを用いない
 - 例)
 - scanf_s (Visual C++系コンパイラのみが対応)
 - cout (C++)
- 採点者の環境
 - OS : macOS Sierra
 - コンパイラ : gcc または clang (clang-900.0.39.2)
 - 文字コード : UTF-8